

おもな内容 main contents

有明海と荒尾干潟の再生に向けて	2
まちの話題	4
新副市長就任	8
保健・健康	9
子育てのひろば	10
市民病院からのお知らせ	12
農業委員会だより	13
平成 27 年度荒尾市の決算	14
市職員の給与・定員管理の公表	18
万田坑フェスタ 2016	20
起業家支援センターを活用しよう!	22
くらしの情報	23
試験・募集・イベント	27
はじめての HAPPY BIRTHDAY など	33
図書館情報	34
文化センター情報	35
相談の窓口など	36
あらおカレンダー	39

声の広報 [文字による情報入手が困難な障がい者のための音声録音版広報紙]
〒777-0001 荒尾市 福社課 福社係 ☎ 63-1406

荒尾市ホームページ
<http://www.city.arao.lg.jp/>

★荒尾市強調月間★

11月
「青少年健全育成の月」

広報あらおは見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。

有明海と荒尾干潟の再生に向けて 実証実験に取り組んでいます

荒尾市長 山下慶一郎



1_油圧ショベルを使って海岸の貝殻を収集します。2_ロータリーキルン（回転式の窯）を使って、400℃で貝殻を焼成します。焼成した後で破片の大きさで選別します。3_焼成した貝殻を破片の大きさごとに実験場所を分けて干潟に散布します。酸性化した干潟の中和と、有害な硫化物を付着させる効果が期待できます。4_干潟の表層だけではなく、内部にも効果を及ぼすため、散布した貝殻を、干潟にすき込みます。

有明海の現状

荒尾干潟は多くの渡り鳥の飛来地です。平成24年7月に、水鳥の生息地であり国際的に重要な湿地として、ラムサール条約に登録されました。以前はノリやアサリなど多くの海産物が採れて漁業も盛んでしたが、近年は干潟に泥が堆積するなど生育環境が悪化しています。アサリの漁獲量は平成5年度の4644トンをピークに減少が続き、平成26年度は12トンにまで減少しています。

実証実験の内容

海岸には多くの貝殻が打ち上がっており、漁船の航行や荷物の揚げ降ろしなどに邪魔になります。貝殻を有効に活用できないかと考えたことが、実証実験の始まりでした。調べを進めていく中で、瀬戸内海ではカキ殻を利用して干潟の改善の実証実験を行った実績があることがわかりました。貝殻の種類が違っても成分はほとんど同じなので、荒尾干潟の貝殻でも、干潟の改善が出来るのではないかと考えました。

今後の展開

そして、国の地方創生加速化交付金4千万円を利用し、実証実験に取り組むこととなりました。具体的な実験内容は、酸性化した干潟をアルカリ性の貝殻で中和し、有害物質の硫化水素の発生を抑制して環境改善を図ることです。干潟に生息する生物の増加を図ることを目的としています。

8月末に干潟への散布耕うんが終了し、現在は底生生物やアサリの着底状況を調査中です。干潟での実証実験を始めて間もないため、目立った成果は表れていませんが、年度末には実験結果が報告できるものと考えています。

今後は実験結果を検証し、この方法により干潟の環境改善に取り組み、平成32年度にはアサリの漁獲量を100トンまで回復させ、漁業者を現在の68人から150人まで増やします。

豊漁の有明海の復活と水産業の復興に向けて一歩ずつ進めていきます。

農林水産課 耕地水産係
☎ 63・1454

実証実験の流れ

貝殻の収集

貝殻の焼成

貝殻の粉碎

散布・耕うん

調査検証